

TOPIC：生成AI活用事例

**数字で効果を見る！
生成AI活用事例集 7選**

日本をAI先進国に

SHIFT AIが、日本の未来をシフトする。

AIは世界を変える力を持っています。生成AI技術は急速に進化し、様々な分野で注目を浴び、世界中で革命を引き起こしています。しかしながら、日本はAI人材不足とケーススタディの不足から、国際的な競争に遅れを取っているのが現状です。

SHIFT AIの使命は、この課題に立ち向かい、AIの知識と情報を集結させ、日本のAI業界をリードする存在になることです。

SHIFT AIは、AIに関する情報発信、教育、活用支援の3つの軸で日本のAI推進の加速を実現します。



代表取締役：木内 翔大

会社概要

会社名	株式会社SHIFT AI
設立年月日	2022年3月18日
所在地	東京都渋谷区渋谷2丁目24-12 渋谷スクランブルスクエア
資本金	4,300万円
代表取締役	木内 翔大
事業内容	AI系SNS事業 / AIメディア事業 / コミュニティ事業

事業概要

メディア事業

SNS

X（旧Twitter）をはじめ、TikTokやYoutube、InstagramにてAIの活用ノウハウや最新動向を配信



SHIFT AIブログ

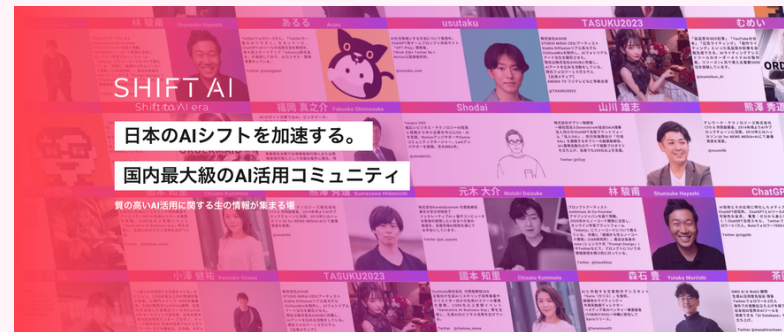
AIに関する解説、ツールの活用方法などの記事を配信



コミュニティ事業

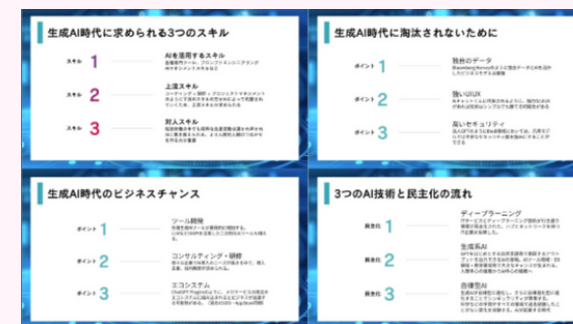
SHIFT AI

最新AIトレンド情報、スキルアップ、人的ネットワークを得られる国内最大級のAI活用コミュニティ



AI CAMP

AI人材になるために必要なAIスキルを網羅的かつ体系的に習得できる唯一無二のスクール



コンサルティング事業

法人向け研究会

企業間の情報交換および他社事例の研究会を定期的で開催



企業向け研修・コンサルティング

AI人材を育成するための研修やコンサルティング支援を実施します。



SHIFT AI の企業向け AI活用支援サービス

現状



AI推進チームを立ち上げてみたが…



AI活用の方法が分からない



部署でのAI導入が進んでいる



自社の取り組みが正しいのか分からない

日本企業全体が
AIを活用

AI先進国

企業間交流

AI人材育成

SHIFT AI
Shift to AI era.

AI活用推進

AIスタートアップ支援

目次

目次



- 1 会社紹介
- 2 AI活用事例
- 3 事例1) LINE・ヤフー
- 4 事例2) 日立製作所
- 5 事例3) ベネッセ
- 6 事例4) GMOインターネットグループ
- 7 事例5) パナソニックコネクト
- 8 事例6) ディップ株式会社
- 9 事例7) 株式会社建設システム（KENTEM）

本資料の概要

他社のAI活用事例および、活用から期待できる効果について、理解を深めることができます。

生成AIの他社活用事例の紹介



他社ではどのように生成AIを活用しているのか、活用事例を見ていきましょう。

活用事例→ 今後期待される効果



今後期待される効果を考察することで、生成AIの可能性に関する視野を広げましょう。

活用事例集

7選

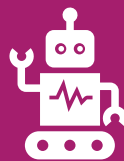
事例1) “LINE・ヤフー” のAI活用事例

全エンジニア約7,000名を対象に「1人当たりのコーディング時間が約1～2時間削減した」事例をご紹介します。



概要

LINE・ヤフーは、約7,000名のエンジニアに対して「GitHub Copilot for Business」を2023年10月13日（金）より導入開始



詳細

「GitHub Copilot」はソフトウェア開発におけるコーディング作業（プログラミング言語の記述作業）においてAIがコード記述の提案を行い、エラーや最適化のポイントもAIの視点でとらえることで、エンジニアがより効果的で効率的に作業を進めることができるツール



さらに

LINE・ヤフーでは、導入に際し、従業員のリスク意識の向上を図るため、全利用対象者に対して利用に関するeラーニング受講を必須とし、著作権侵害を防ぐための講習などを実施

事例1) “LINE・ヤフー” のAI活用事例

効果の詳細及び、今後期待される効果を報告します。

LINEヤフー

エンジニアのコーディング
時間が1～2時間短縮
→ 作業効率が10～30%向上



引用元：[GitHub Copilot for Business is now available](#)



期待される
効果

テスト終了後のアンケートによる定性評価とGitHubでの様々な活動を定量化するアクティビティによる評価の分析の結果、1人あたりのエンジニアの1日のコーディング時間は約1～2時間の削減が行われ、アクティビティでは一部指標における利用前後の比較にて約10～30%の向上が見られた。

→ LINE・ヤフーは「GitHub Copilot for Business」を積極的に活用する方針を発表。
現場改善が期待される。

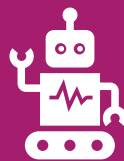
事例2) “日立製作所” のAI活用事例

日立グループの**32万人**の社員が様々な業務で生成AIを使用できるよう、社内環境を整備した事例。



概要

Azure OpenAI Service を活用した社内利用環境「Generative AIアシスタントツール」の整備により、2023年5月末から、日立グループの**32万人の社員**がさまざまな**業務で生成AIを利用可能に！**



詳細

Azure OpenAI Serviceを活用することで、議事録の自動生成、システム実装のローコード/ノーコード化、テキストデータの分析、チャットボットの攻撃的応答の抑制などを実現。また「日立グループでは、**生成AIの社内利用を禁止するのではなく、積極的に活用していく方針**」との声明を発表



さらに

2023年には、生成AIの知見を集めて推進する組織として、データサイエンティストや研究者、セキュリティの専門家らによる「**Generative AIセンター**」
(リスクを回避して安全に使うためのガイドラインを制定する機関) **を設置**

事例2) “日立製作所” のAI活用事例

効果の詳細及び、今後期待される効果を報告します。

HITACHI
Inspire the Next

生成AIを活用し2027年までに
システム開発の効率を
3割向上させるという目標を設定


Azure OpenAI Service

 LUMADA
“illuminate” + “data”

引用元： <https://www.hitachi.co.jp/products/it/lumada/index.html>



期待される
効果

日立グループでは、32万人の社員が業務で生成AIを使用できるよう、社内環境を整備しただけでなく、「Generative AIセンター」が社内活用をサポートすることで、業務の効率化と生産性向上を図る。
→ 月単位でガイドラインを見直す等、AI推進チームが推進力を持つことで、FY2027の目標値が現実的に！

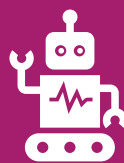
事例3) “ベネッセ”のAI活用事例

Webサイト制作・運用の「コスト4割削減、制作期間5割短縮」を実現した事例をご紹介します。



概要

ベネッセが運営する「進研ゼミ」Webサイトにおけるデジタルマーケティング業務において、生成AIを活用した「次世代型Webサイトプロジェクト」を開始。



詳細

進研ゼミ 中学講座のサイト制作において、生成AIによるテキスト生成とノーコードツールなどを活用することで、Webサイト構築にかかる工数をコスト4割削減・8週間から3週間への短納期化・人数体制7割減を達成。



さらに

プロセス変革による生産性の向上に伴い、空いた時間と人員をより付加価値の高い業務へシフトすることが可能に。これは結果として、顧客体験の向上に寄与することに。

事例3) “ベネッセ”のAI活用事例

効果の詳細及び、今後期待される効果を報告します。



2024年4月以降は
既存Webサイトの業務プロセスを改革し、
顧客体験および生産性の向上を実現

進研ゼミ
中学講座

引用元： <https://chu.benesse.co.jp/>



期待される
効果

単年のAI活用に留まらず、生成AI活用が生み出す成果の分析と振り返りを行うことで、
次年度の改善計画を立案。
計画的なAI活用のサイクルを定着させていくことで、次年度はAI活用のスコープ拡大も視野に！
→ 2023年度と同様に、工数やコストの削減等、数値的な効果が出ることが期待される。

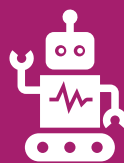
事例4) “GMOインターネットグループ” のAI活用事例

「約9万6,000時間、600人月に相当する業務時間を創出」した事例をご紹介します。



概要

GMOインターネットグループは、生成AIの活用により業務時間を大幅に創出。
「AI活用No.1企業グループ」を目指し、グループ全体で生成AIの使用を促進。



詳細

グループを挙げて生成AIの活用を進めた結果、約9万6,000時間、
国内パートナー（従業員）数の約10%にあたる600人月に相当する業務時間を創出することに成功。



さらに

グループ内での調査によると、GMOインターネットグループ内でChat GPTの認知度は73.5%！
71%のパートナーが「業務で”AI”を活用している」回答しており、
内66%は「”生成AI”を業務に活用している」と回答。

事例4) “GMOインターネットグループ” のAI活用事例

効果の詳細及び、今後期待される効果を報告します。



生成AIを業務に活用しているパートナーのうち
95%が「生成AI活用で仕事のアウトプットの質向上につながっている」と回答！



引用元： <https://www.gmo.jp/ai-history/>



期待される
効果

グループパートナー全員の業務活用を推進するために、賞金総額1000万円の「ChatGPT業務活用コンテスト」開催する等、
「AI活用No.1企業グループ」の実現に向け 社長自らAIの業務活動をリードしている。
→ 生成AI活用によるさらなる工数削減や、創出された労働時間の活用が期待される。

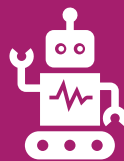
事例5) “パナソニックコネクト” のAI活用事例

「社内広報業務が9時間→6分、プログラミング業務が3時間→5分に変化した」事例をご紹介します。



概要

パナソニックグループでは、ChatGPTを活用した独自システム「Connect AI」を開発し国内全社員約1万3400人が業務活用ができる環境を整備。（2023年2月～）



詳細

社内広報業務のアンケート分析において、従来は9時間ほどの時間を要していた約1500件のアンケート結果分析が、Connect AIの活用により**たったの6分で実現可能に！**



さらに

さらに、プログラミング業務においては、コーディング前のチェック工程で事前準備として約3時間かかっていた複数拠点のデータを収集業務が、Connect AIの活用により**5分に短縮**。

事例5) “パナソニックコネクト” のAI活用事例

効果の詳細及び、今後期待される効果を報告します。

Panasonic
CONNECT

Connect AIは**1日に5000回以上の利用**が確認
→ 社員の間で幅広く活用されている

PX

Panasonic
Transformation

「ConnectAI」をベースにして、
パナソニックグループに最適化した「PX-AI」を開発・展開。
グループ全体で業務のトランスフォーメーションを加速。

引用元： <https://content.connect.panasonic.com/jp-ja/fai/file/50794>



**期待される
効果**

23年には、公開情報を基に広い質問に回答してくれる汎用AIに、企業独自の社外秘情報を読み込ませた自社特化AIを開発。それだけでなく、24年以降は個人特化AIとして、個人の役割に応じた回答をしてくれるAIを導入するとの方針を発表。

→ 職種・役割に応じた個人特化AIが日常業務に活用できるようになることで、さらなる業務変革が期待される。

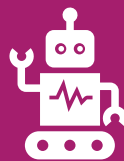
事例6) “ディップ株式会社”のAI活用事例

現場で活用できる200以上のプロンプトデータベースを
約3,000名の全社員に公開した結果、60%以上の従業員が生成AIを活用している事例をご紹介します。



概要

ディップ株式会社では、現場主導・スピード・全社横断を
コンセプトにした組織「dip AI Force」を立ち上げ、全社で生成AI活用を推進。



詳細

「dip AI Force」では、200以上のChatGPTプロンプトを整備し、
現場に250名のアンバサダーを配置することで、全社の生産性向上と業務効率化を実現。
→ その結果、従業員の生成AI使用率は約60%以上に！



さらに

生成系AIを活用し雇用創出の可能性を大きく広げる“これからの仕事探し”を実現すべく
「AIエージェント事業」の開発を開始する等、AIでの事業スコープを拡大。

事例6) “ディップ株式会社” のAI活用事例

効果の詳細及び、今後期待される効果を報告します。

dip

東京大学松尾豊研究室の成果活用型企业である
株式会社松尾研究所と連携し共同研究を実施
→ 社内改善のみならず、事業にAIを組み込む方針にシフト！



引用元：<https://www.dip-net.co.jp/news/1924>



期待される
効果

AIを特定の領域に特化させて教育することで、誤った情報の出力を減少させる取り組みも推進。
→ さらなる生成AIの活用により、3年で営業生産性 1.8倍に引き上げることを目指す。

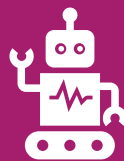
事例7) “株式会社建設システム（KENTEM）” のAI活用事例

生成AIの活用および、プロンプトのナレッジ蓄積により、
60分かかっていた日常業務が30分に削減された事例をご紹介します。



概要

KENTEMでは、各従業員がどの業務のどの場面で生成AIを使用できるのか、また、どのようなプロンプトが適切なのかを従業員目線で収集する取り組みを実施。



詳細

各部署から情報を収集し、業務改善プロンプトを纏めたリストを作成したことで、60分かかっていた日常業務が30分に削減することに成功！



さらに

新規事業におけるプログラムの開発工程では、過去の古いソースコードを新しく書き換える際にもChatGPTを活用。その結果、プロセスを効率化され、生成AIは欠かせない存在に！

事例7) “株式会社建設システム（KENTEM）”のAI活用事例

効果の詳細及び、今後期待される効果を報告します。



部署ごとに最適な生成AI活用術を見つけることで、サイロ化を防ぐとともに、生成AIのナレッジマネジメントを推進！



引用元：<https://www.kentem.jp/product-service>



期待される
効果

生成AIナレッジ共有の仕組み作りだけではなく、その効果の大きさや汎用度を評価し、
カテゴリー分析や、改善効率の観点から重み付けを行っていく方針
→ 2023年11月時点ではデータ収集の段階ではあるものの、
既に100程度のナレッジを蓄積している状態にあり、今後もナレッジの集約が見込まれる。

SHIFT AI

Shift to AI era.